

発行者名		東京書籍
観 点		
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲 及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・発展的内容が単元の間にはけられており、有効である。 ・生徒の発達段階に適応している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する 配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「18歳へのステップ」のページに主権者教育の内容等が入っており、生徒が興味・関心を高めやすい内容である。 ・新聞記事の資料が多く、教師が様々な見方を提示することができる。 ・「スキル・アップ」(「裁判所の傍聴の仕方」、「株式市況欄を読み取ろう」)が、生徒にとって難易度が高く、授業での取扱いが困難である。 ・(学校)現代社会の様々な事例を取り上げ、興味・関心を引く配慮がなされている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 ・(学校)標準時数と予備時数が含まれており、柔軟なカリキュラムを作ることができるなど、全体の分量は授業時数から見て適切である。 ・本文に対して、「もっと解説」等の探究課題が多く、基礎的な内容と発展的な内容との差が分かりづらい。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)二次元コードからデジタルコンテンツにアクセスでき、豊富なツールを用いることで、生徒の主体的な学習の深まりを補助できるように配慮されている。 ・(学校)「みんなでチャレンジ」、「スキル・アップ」の項目で思考力や判断力を養うことができる。 ・生徒がデジタルコンテンツで作成した探究課題を画像として残すことができる。 ・グラフ等の資料が最新のものになっている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、フォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字体、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 ・見開いたページの中に、色が多く使われ過ぎており、生徒が集中力を欠くことが懸念される。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校)パートナーシップ等を含め、性の多様性について適切に説明がなされている。 ・(市民)日本国憲法の平和主義の記述において、さまざまな立場からの意見が取り上げられている。 ・日本国憲法以外の参考法令がデジタルコンテンツとなっており、授業で活用しづらい。 ・SDGsに関する記述はあるが、各単元において本文と関連付ける表記がない。 ・全体的に「見方・考え方」のマークがついており、社会的事象を生活と関連付けて多面的・多角的に考える力を養うことができる。 ・(学校)章ごとに知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養える内容が用意されている。 ・(学校)我が国の選挙の課題についての内容を充実させるなどの改善点は見られるが、なぜ若者が選挙に行かなくてはならないのかを考えさせる内容になっていない。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	教 育 出 版
各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	1	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	2	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な内容と、コラム等の発展的な内容が明確に区別されている。 ・(学校)「持続可能な社会に向けて」のSDGs関連のページに、具体的な項目が表記されており、全体の学習を通して取り上げることができる。 ・(学校)本文の横に語句の説明があるなど、個に応じた指導への配慮がされている。 ・(学校)「表現！」を活用することで言語活動を行いやすい。
	3	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・各章の時数がバランスよく配当されており、全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。 ・資料の解説が多く、情報量が多い。
	4	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・節を貫く問いが掲載されており、生徒が学習課題を確認しやすい。 ・本文中の用語解説の量が適切である。また、重要度の低いものに関しては巻末で触れられている。 ・生徒の探究活動を促す資料が少ない。 ・デジタルコンテンツが限られている。 ・(学校)合唱コンクールを例にあげているが、やっていない学校ではイメージが難しい。
	5	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明であり、フォントにはユニバーサルデザインが採用され、文字の大きさ、字體、行間及び、製本の様式、紙質などが適切である。 ・(学校)図やグラフに使用されている色もすべての生徒の色覚特性に適應するデザインとなっている。 ・(学校)グラフにおいて、点線の使用が少なく、大変見やすい。
2	教科ごとの選定の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙に関する内容が少ない。 ・国際協力や人権に関する内容が、多面的・多角的に取り上げられている。 ・各ページに小学校の内容や他分野、他教科との関連が記されている。 ・巻末に多様な諸法令集が記されている。また、日本国憲法については「言葉の解説」が記されており、生徒が理解しやすい。 ・(市民)日本国憲法の平和主義や外交問題について、日本だけでなく、幅広い視点で平和の構築について、さまざまな立場からの意見が取り上げられている。 ・(学校)SDGsに関わる課題を多く取り上げており、広い視野を持ち、国際的な関わりや個人と社会との関わりへの理解を深めながら、調べまとめる技能が身に付く構成・内容となっている。 ・(市民)平和の構築に向けて、自衛隊と自衛隊のあり方について、どのように考えたらいいのか議論しようという表現で記述されている。 ・(市民)日本国憲法に関する記述について、コラムの中で女性の権利向上に向けて尽力した方を掲載している。 ・(市民)領土問題について、「武力に頼ることなく対話と法に基づいて」との記述がよい。 ・(市民)核兵器禁止条約について、写真を掲載して記述がある。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		帝 国 書 院
観 点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料が適度に挿入されている。 ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本文に関連する資料等が適切に提示されており、基礎的な内容を習得しやすい。 ・(学校)デジタルコンテンツに統計資料やワークシート等が充実していて、本文の横に語句の説明があるなど、個に応じた指導への配慮がされている。 ・(学校)「アクティブ公民」と関連させたリンク集が充実しており、議論を中心とした生徒の主体的な学びをサポートできる。 ・(学校)節ごとにまとめができるが、章としての振り返りをするには不便に感じる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。 ・見開き1ページの文章量が多い。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元に二次元コードが記載され、デジタルコンテンツにアクセスしやすい。 ・デジタルコンテンツの内容が充実している。 ・本文と資料は、学習を進めるうえで、関連をもたせるものとなっており、学習の深まりを補助できるように配慮されている。 ・巻頭で、教科書を活用した学び方が詳しく記されている。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の厚みが薄い。 ・ユニバーサルデザインの観点から、すべての生徒にとって見やすい配色やフォントでテキストがつけられていて、文字の字体、行間が適切である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・性の多様性について、解説や本文にも記載がある。 ・「子どもの人権を守る制度」の記述については、取り扱いに十分配慮する必要がある。 ・章のはじめの「学習の前に」や、「アクティブ公民」、「アクティブラーニング」の特集の内容が、生徒に考察・議論させやすく、使いやすい。 ・各ページに小学校の内容や他分野、他教科との関連が記されている。 ・第5部の「課題探究学習」が、生徒の主体的な学びや社会科のまとめの学習に活用しやすい。 ・(学校)「アクティブ公民AL」を活用することで、知識・技能を身につけ、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を養える。 ・(学校)あらゆる場面で地図帳を活用する場面があるのがよい。 ・(学校)「技能をみがく」コーナーが全6か所設けられ、ロールプレイングやディベート、ディスカッションなどのスキルを活用し、主体的な取り組みを促すことで、自主・自立の精神が養われるよう工夫されている。 ・(市民)憲法の改正について、基本がよくおさえられ適切な文章で記述されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行 者 名	日 本 文 教 出 版
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発達段階に適切している。 ・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・各章の「学習のはじめに」を活用することで、章のめあてを考えやすい構成になっている。 ・新聞記事の資料が多く、教師が様々な見方を提示することができる。 ・(学校)「アクティビティ」や「チャレンジ公民」は、言語活動として生徒に考えさせやすい。また、各章の終わりに「まとめとふり返し」があり、基礎的内容の確認と発展的内容の振り返りを行うことで、深い学びにつながる。
	(3) 分量		<ul style="list-style-type: none"> ・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・学習指導要領の内容及び、内容の取扱いに示す事項が、授業時数に応じて、適切に配分されている。 ・各領域および、分野の内容に偏りが無い。
	(4) 使用上の便宜		<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオなどのデジタルコンテンツが活用しやすい。 ・資料と本文の配置が変わらず、統一されている。 ・デジタルコンテンツの小テストが活用しやすく、毎時間の理解度確認にも使用できる。 ・見開きページの中に、文字による情報量が多い。 ・(学校)歴史上の人物の写真が多く、歴史に関連する記載内容が多い。 ・(学校)合唱コンクールを例にあげているが、やっていない学校ではイメージが難しい。
	(5) 印刷・製本等		<ul style="list-style-type: none"> ・表紙の色使いがSDGsを意識し、工夫されている。 ・(学校)ユニバーサルデザインの観点から、すべての生徒にとって見やすい配色やUDフォントでテキストがつけられていて、文字の字体、行間が適切である。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・人権思想についての説明が、分かりやすく流れを読み取りやすい。 ・金融や投資に関する説明が簡潔にまとめられている。 ・選挙に関する記述が、主権者としての自覚を促す書き方になっている。 ・日本の安全保障の記述については、取扱いに十分配慮する必要がある。 ・ウェビングマップの活用や考えを記述する活動を通して、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を図る構成になっている。 ・巻頭からSDGsが取り扱われており、公民の学習を通じて関連性をもたせることができるようになっているが、本文には具体的な関連項目が分かるようにはなっていない。 ・メディアリテラシーに関わる記述が具体的で分かりやすい。 ・(学校)社会のバリアフリー化の例として、実際の点字が掲載されている。 ・(市民)民主主義に関する記述について、「少数意見の尊重」が強調されて、適切に説明されている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

発行者名		自由社
観点		
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・資料は、一単位時間で取り扱う量としては適量である。 ・安全保障関連の記述が詳細で、取り扱いが難しい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・「アクティブに深めよう」は、直接記入することができ、学びを深める内容である。 ・全体を通して、古事記、日本書紀や、天皇制に関する内容の記述が多い。 ・日本国憲法改正に関する内容の記述が多い。 ・(市民)主権が国民にある、選挙の重要性などがわかりやすく書かれている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・「ミニ知識」や「もっと知りたい」などの発展的内容が充実しているが、語句の解説が多く、生徒が思考を深めづらい。 ・日本国憲法の平和主義や国際問題に比べ、基本的人権に関する内容が少ない。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・資料等が多すぎず、ユニバーサルデザインの視点からは使いやすい。 ・デジタルコンテンツがない。 ・資料に写真が多く使われており、表やグラフで客観的に分析する資料が少ない。 ・資料の文字に統一感がない。 ・資料にナンバリングがなく、生徒に指示しにくい。 ・(学校)「学習を深めよう」の内容があらゆる分野に関連しており、生徒の視野を広げやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きく見やすい。 ・見開いたページの中に、色味が抑えてあり見やすい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・学びを深める学習が表にまとめる形式が多く、課題を追究・解決する活動につながりにくい。 ・SDGsに関する記述や、関連を示す資料が少ない。 ・日本国憲法の成立についての記述が詳細である。 ・「ここがポイント！」で、本文の内容を簡潔にまとめている。 ・巻末の法令集は充実しているが、日本国憲法で使用されている語句の解説がなく、読み取りの難易度が高い。 ・(学校)「旧敵国」という記述が強調され、取り扱いが難しい。 ・(学校)基本的人権についての記述は少なく、政治や国際問題に関する内容に重点が置かれている。 ・(学校)可能な限り平易な用語が使用され、基礎的な意味を理解できる学習事項が精選されている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名	育 鵬 社
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度		・学習指導要領に示す内容及び、内容の取扱いに示す事項を不足なく取り上げている。
	(2) 内容に関する配慮事項		・「学習を深めよう」や「やってみよう」では、学習内容を深められるように配慮している。 ・補足的な内容が充実しているが、全体を通して情報量や文字数が多い。 ・言語活動や問題解決的な学習を促すツールが少ない。 ・(学校)「探究」を活用することで、言語活動を充実できる。
	(3) 分量		・全体の分量は、授業時数からみて適切である。 ・「社会科のまとめ」が充実している。 ・(学校)経済分野に関する内容に比べ、基本的人権に関する内容が少ない。
	(4) 使用上の便宜		・節ごとの学習課題が関連するページにすべて記載されており、見通しをもって学習を行うことができる。 ・本文と資料のバランスに統一感がない。 ・デジタルコンテンツが、「NHK for school」とリンク集に限られている。
	(5) 印刷・製本等		・ユニバーサルデザインの観点から、生徒に見やすいフォントや配色になっている。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点			<ul style="list-style-type: none"> ・資料に外国との比較が多く取り入れられており、国際的な関わりや個人・社会との関わりについて考える機会を提示できる内容となっている。 ・新しい金融サービスを取り扱っている。 ・今日的な社会問題・国際問題を取り扱っている。 ・「旧敵国条項」という記述があり、取り扱いが難しい。 ・(市民)性の多様性に関する記述が少ない。 ・(市民)所々に子どもの意見がふきだして書かれてあり、生徒自身で考えることが疎かになるのではないかと 思う。 ・(市民)ジェンダー問題が欠けている。

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 東京書籍
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域、各地方の資料ページ（人口分布・自然・産業等）の作り方がほぼ同じなので分かりやすい。共通の指標で理解しやすい。また、地域の特色を捉えるための資料も豊富である。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達の段階に対応しており、3年間活用できる内容になっている。 ・歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料が掲載されており、各分野での学習に活用できる。（古戦場や人口ピラミッド、伝統文化等）。 ・印字が大きく、また1ページ当たりの情報量が多いため、地域によっては見づらい箇所もある。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全ページに資料活用コーナー「ビーズアイ」が設けられ、生徒の自主的な学習を促す工夫がされている。 ・関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」を設け、複数の資料を関連させることができる。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・適している。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・A B版からA 4版に拡大したことで、地図が大きく見やすくなっている。 ・デジタルコンテンツ「My Globe」や「社会科デジタルマップ」により体感的に地形等を捉えることができる。 ・（学校）地図上の地形や地名の表記数が多すぎるため、とても見にくい。 ・デジタルコンテンツの視点が一定であり、活用しづらい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた色合いで、目に優しいが、（学校）色合いが淡く、差をつかみにくい。 ・文字の大きさは適切である。 ・ページによりざらついた感じがある。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の統計、人口構成や産業別割合がグラフになっていて、視覚的に分かりやすい。 ・世界の諸地域による各種の地域的特色については、資料の配置が地域問わず一定であり、見やすい構成となっている。 ・統計資料も豊富に掲載されている。 ・SDGsに関連がある図版の掲載や関連ページが豊富である。 ・日本で起こりやすい災害や過去の公害に関する資料が掲載されており、防災・安全の意識を高めることができる。 ・景観写真の読み取り等の技能が身につく。 ・標高を表す凡例が細分化されているが、地図上で見ると違いが分かりにくい。 ・各ページに資料を活用した質問が設定されていて良いが、解答を二次元コードで読み取らないとならないため手間がかかる。 ・p. 48掲載の統計の「5 アフリカ諸国の独立と紛争（2）」の所得格差の資料からはアフリカの所得格差を理解するのに分かりづらいと思われる。（総額が分からず、金額の比較が難しい）。 ・（学校）世界や日本の地域的特色をつかませやすい紙面構成となっている。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。

観 点		発行者名 帝 国 書 院
1 各 教 科 共 通 の 選 定 の 観 点	(1) 内容の範囲及び程度	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に合わせて調べるポイントにあたる資料を精選しているため、教科書と併用することが望ましい。 ・内容の程度は、その学年の生徒の発達段階に対応しており、3年間活用できる内容になっている。 ・歴史的分野、公民的分野の学習とも連携した資料が掲載されており、各分野での学習に活用できる。歴史的分野、公民的分野の基礎的な必要最小限の情報が記載されており、組み合わせて活用しやすい。 ・必要最小限の情報を記載しているため、地図帳のみでの指導は難しい。
	(2) 内容に関する配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地理的分野だけでなく、歴史的分野・公民的分野の内容も掲載しており、それぞれの分野での活用を図りやすい。 ・地図から読み取る学習活動や言語活動を促すコーナー「地図で発見！」が、自学自習に役立つように配置されている。
	(3) 分量	<ul style="list-style-type: none"> ・(学校) 全体の分量は、授業時数から見て適切である。
	(4) 使用上の便宜	<ul style="list-style-type: none"> ・地図上の地形や地名の表記、色が精選されており、見やすく作成されている。 ・テーマごとの地図の縮尺が統一されており、比較や関連付けがしやすい。 ・デジタルコンテンツについては、アニメーションやクイズ、発展的なウェブマップなど、様々なコンテンツが活用できるようになっている。 ・データの年度が記載されていないものがある。 ・(学校) 地図の使用方法が丁寧に説明されているなど、1年生の最初の授業の導入として使いやすい。
	(5) 印刷・製本等	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷は鮮明である。 ・記載する地名や地形名が重ならないように配慮している。 ・果樹園や田など、色の下に模様を入れており、色覚特性の子どもに配慮している。 ・配色が淡すぎて、海の深度等が読み取りづらい。
2 教 科 ご と の 選 定 の 観 点	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の種類が多く、一つ一つの資料が見やすくまとまっている。 ・地図、写真、グラフや主題図の配色がはっきりしていて見やすい。 ・写真やグラフが豊富にあり、過去と現在の比較などもしやすいため、理解しやすい。 ・地図や景観写真等の情報量が精選されており、地理的技能を養うのに適している。 ・世界の諸地域による各種の地域的特色については、地域によって教科書と関連させて資料を提示してあるため、使い勝手が良い。 ・pp.159～162 掲載の「日本の自然災害・防災」において様々な自然災害を取り上げている。 ・SDGsについて考察できる特集ページや各種関連資料が豊富に掲載されている。 ・「防災」「環境」「日本との結びつき」などテーマをもたせた主題図が掲載されており、持続可能な社会について考えることができるように構成されている。 ・各ページに質問があるが、すぐに分かるような内容が多く、思考を深めるような問いは少ない。 ・各ページに質問が設定されていて良いが、解答を二次元コードで読み取ったときに、解答にたどりつくまで時間がかかる。 ・(学校) 世界と日本の地域的特色が捉えられる地図である。 	

※ 「令和7年度使用義務教育諸学校教科用図書採択基準及び選定資料」の「2 教科共通の選定の観点」及び「3 教科ごとの選定の観点」を基に、特徴を記入すること。